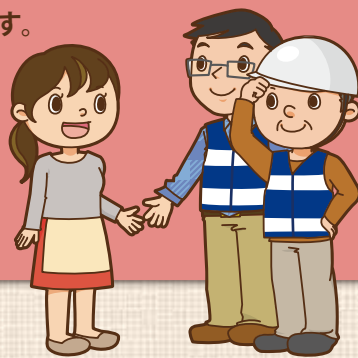


# 地域みんなの助け合い

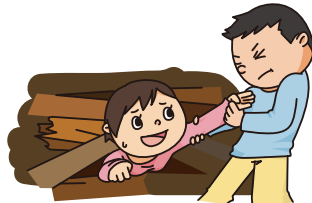
共助

自宅にいくら備えがあっても、隣近所が出火すれば類焼してしまいます。また、近隣には高齢者や乳幼児、身体に障害を持つ方々など、あなたの助けを必要としている人がいるかもしれません。災害に対して、地域みんなで助け合うことが必要なのです。

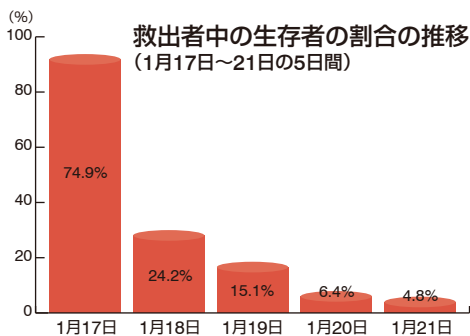


## 阪神・淡路大震災の教訓

右図は、阪神・淡路大震災における救出者のうち、生存者の占める割合を表したものです。被災当日の1月17日は、生きて救出された人が約75%でしたが、翌18日には約24%になってしまいました。早く助けるほど、生存の確率が高かったことを示しています。



倒壊した家屋などの下敷きになった人のうち、警察・消防・自衛隊に救助されたのは23%にとどまり、77%の人は近隣住民等によって助けられたという推計もあります。



## 大地震!そのとき近所で協力

### みんなで火事を消そう

一人で通報と初期消火を同時に行うのは無理があります。必ず近所の人に応援を求めて、小火のうちに消し止めましょう。

#### 大声で知らせる

「火事だ!」と大声を出し、隣近所に助けを求めましょう。

#### 声を聞いたら

すぐ119番通報してください。しかし大地震で数多くの火災が起こっている場合、消防車の手が回らないこともあります。消火器か、水をくんだバケツを持って駆けつけます。

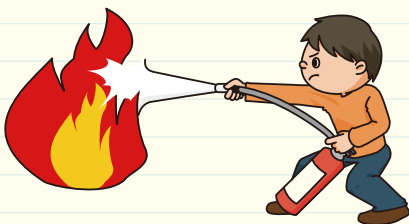
大声を出して、できる限り多くの人を動員しましょう。

#### 初期消火

火災に正対しないように姿勢を低くして消火器を構え、

- 1 安全ピンを抜き
- 2 ホースを火元に向け
- 3 レバーを強く握ります

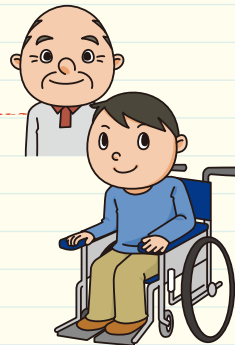
天井に着火したら、初期消火の限界です。すぐ避難しましょう。



### 災害時要配慮者への支援

#### 災害時要配慮者とは

高齢者、障害や疾病のある方、乳幼児、言葉の理解できない外国人など、他の被災者よりもハンデを背負った人々を「災害時要配慮者」と呼ぶことがあります。



#### 日頃からの声かけ

災害時だけにわかに近寄っても、通じ合うことは難しいものです。近所に要配慮者の人たちがいる場合、積極的に交流を深め、信頼関係を築いて、いざという時に安心して行動できるようにしましょう。

#### 災害時の対応

安全確認にかけつけ、一人での対応が困難だと判断したら大声で近所に助けを求めます。寝たきりの方などは、簡易担架などを用いて移動する必要があるので、複数の人で対応しましょう。

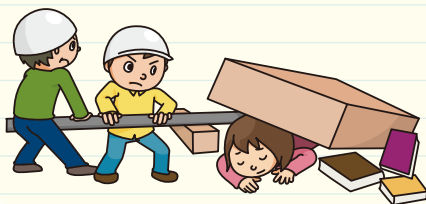
#### 要配慮者側の備え

わが家の状況を自主防災組織や自治会に説明し、適切なサポートを依頼するなど、オープンな備えが必要です。

また、必要な薬や処置がある場合、それらを書いたメモを常に携帯するようにしましょう。

### 救出・救護のしかた

#### タンス等転倒家具からの救出



挟まれている人数を確認し、声をかけ安心感を与えるとともに、てこの原理を利用して隙間をつくり、痛みを和らげるようにします。

持ち上げてできた空間が崩れないよう角材等で補強し、隙間があれば、てこの代わりに自動車用ジャッキを使って持ち上げます。

#### 出血の手当

##### 直接圧迫止血法

出血部位を清潔なガーゼや布で強く押さえます。

